統計の眼

地域社会と子ども―「いじめ」について

小学校の自由選択制をスタートさせた東京都品川区で、保護者を対象にアンケート調査を行ったところ、学校を選ぶポイントに「いじめ」の状況をあげる人が最も多かった。「いじめ」が深刻な社会問題である現在、予想される結果ではあるが、「いじめ」は学校だけの問題ではない。家庭や地域での子どもの生活環境も、一つの大きな要因だろう。

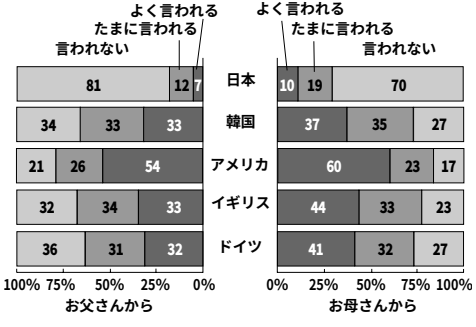
文部省が九九年十月に、日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツの都市部に暮らす小学五年生及び中学二年生の男女を対象に行った「子どもの体験活動等に関する国際比較調査」（実施機関「子ども体験活動研究会」）によると、日本の子どもたちは、諸外国に比べて家庭であまりしつけられていない。例えば、親から「友達と仲良くしなさい」と言われたことがないと答えた子どもが、父親では八一％、母親では七〇％に達している。「弱いものいじめをしないようにしなさい」では同様にそれぞれ七六％、七〇％、「うそをつかないようにしなさい」では七一％、六〇％などとなっている。社会のルールや道徳心に関するしつけは、すべての項目で諸外国に比べて日本の家庭が最も弱かった。特に父親の関与は希薄である。

また、社会体験に関する項目で、「近所の人から叱られたことがあるか」に、「まったくない」、または「あまりない」と答えた子どもは、日本が最も多く（八九％）、地域との関わりも弱いようだ。

同調査では、日本の子どもたちは、諸外国に比べて、「いじめを注意したこと」、「友達のけんかをやめさせたこと」、「悪い事をしている友達に注意したこと」などをあまりしておらず、友人関係も希薄であると指摘している。

家庭や地域が子どもに対して無関心なことが、友達などに対する子どもの無関心さを引き起こしてはいないだろうか。子どもは地域社会によって育てられる。子どもの話に耳を傾け、誉める、叱る、ともに喜ぶ、そんな日常を取り戻すことが、遠回りでも「いじめ」の少ない社会につながるのではないだろうか。（金子）

「友だちと仲良くしなさい」と親から言われますか



資料：文部省